

埼玉・オハイオスカラシップ 奨学生、親善大使レポート 9月 学外での活動

こんにちは。フィンドレーは9月に入った辺りから突然肌寒くなってきました。朝7時の時点では日も登っていないので、長袖がなければ耐えられないほど寒いです。しかしフィンドレーの人達にとってはまだ寒くないようで、半袖、半ズボンの人も見かけます。

9月前半は埼玉県と関係のあるイベントが続きました。片方は相方の伊達君がレポートで紹介します。

・埼玉・オハイオキャリアフェア

9月5日にコロンバスのオハイオ州立大学で行われました埼玉・オハイオキャリアフェアというイベントに参加しました。今回は埼玉県に本社がある自動車部品関係の企業6社が参加していました。

私は帰国後に日本で就職活動をする予定ですが、日本と関係のある会社が参加しているとのことでしたので、アメリカの就職活動の体験も兼ねて参加しました。その準備として英語で履歴書（レジュメ）を作成しました。日本の履歴書とは大きく異なり、まず決まった書式がありません。また、写真や年齢は載せません。いかに自分を売り込むかが重要です。

キャリアフェアでは5分程度の企業紹介の後、各自企業のブースを訪問する第一部、その後、立食パーティー形式の第二部の2部構成でした。第一部では、レジュメを渡し、2～3分ほど自己アピールをしたり質問をしたりしました。その中で、アメリカ人の就職担当者の方や現地で働く日本人の方と話す機会が多くありました。フォーマルな状況で英語を話すのは初めてで、言葉選びに苦戦しました。また英語と日本語を切り替える場面が多く、一言目に相手が何語で話しているのかわからなくなることもありました。



キャリアフェアの会場

・ ニッシン・ブレーキ・オハイオでのインターン

インターンでの私たちの仕事は大きく2つあります。一つ目は機械のメンテナンスの手伝いで、もう一つは工具寿命の管理のプロジェクトです。

機械のメンテナンスでは毎日違った仕事があります。ある日は機械のオイル交換を簡易化するためにオイルタンクを移動する土台を組み立てました。また別の日はすべてのラインの各機械の冷却液の濃度を測定して周りました。また時々ちょっとした部品の図面を引いたりしています。大学で学んだ内容が役に立つ事もありますが、より高度な専門知識や経験が求められている場面も多く、大学ではすることができない経験をしています。毎日違った問題や修理すべき機械があり、その中で自分にできることを探すことは難しいですが、新しい発見も多いです。

工具寿命の管理のプロジェクトでは現在、データを集めています。実際にどれだけ工具を使ったかはタグを見ればわかりますが、コストや想定される寿命などは機械や工具を管理しているエンジニアに聞かなければわかりません。専門用語や工場で使われる英語にはなじみが薄く、自分の意図を伝えるのに苦労することもあります。

このプロジェクトの最終目標は頻繁に交換している工具の適正な工具寿命を決定することです。この先さらにエンジニアとコミュニケーションをとる機会が増えます。ジョークや雑談も含め、エンジニアの人たちの会話の輪になじめ



るように英語を鍛えたいです。

オイルタンク用の土台



切削工具とタグ